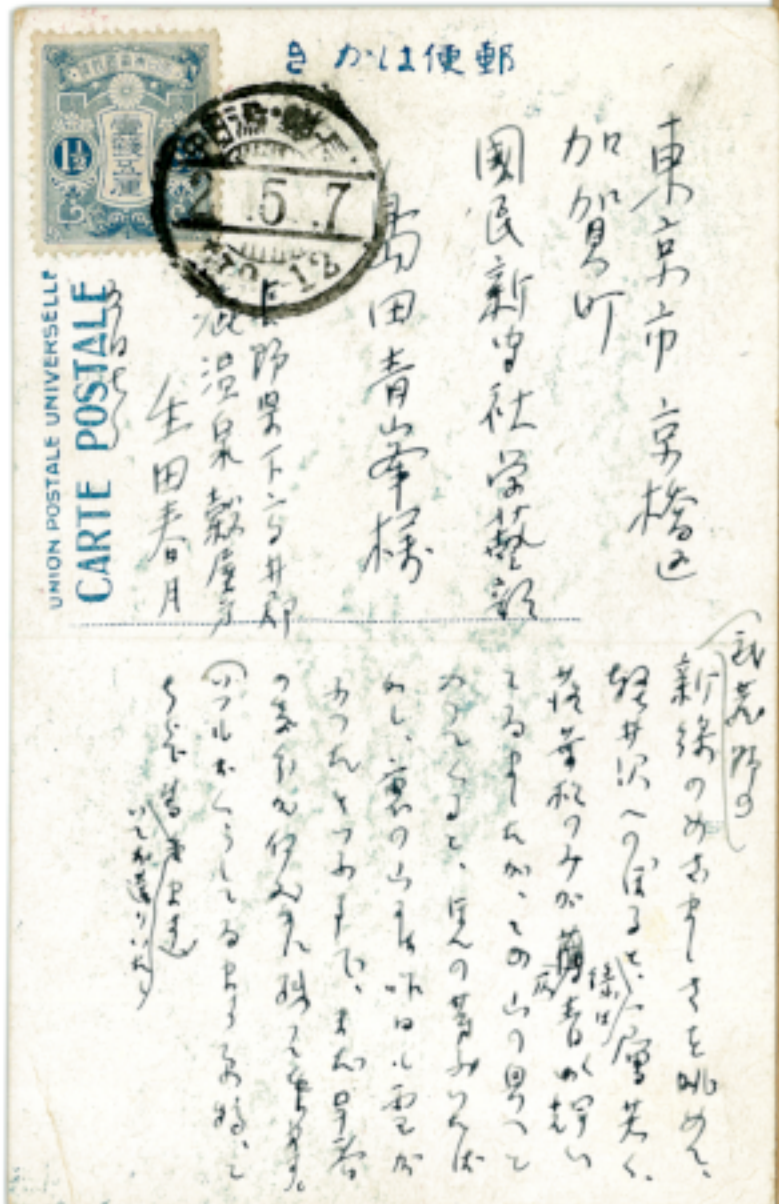

郵便はかき

UNION POSTALE UNIVERSELLE
CARTE POSTALE

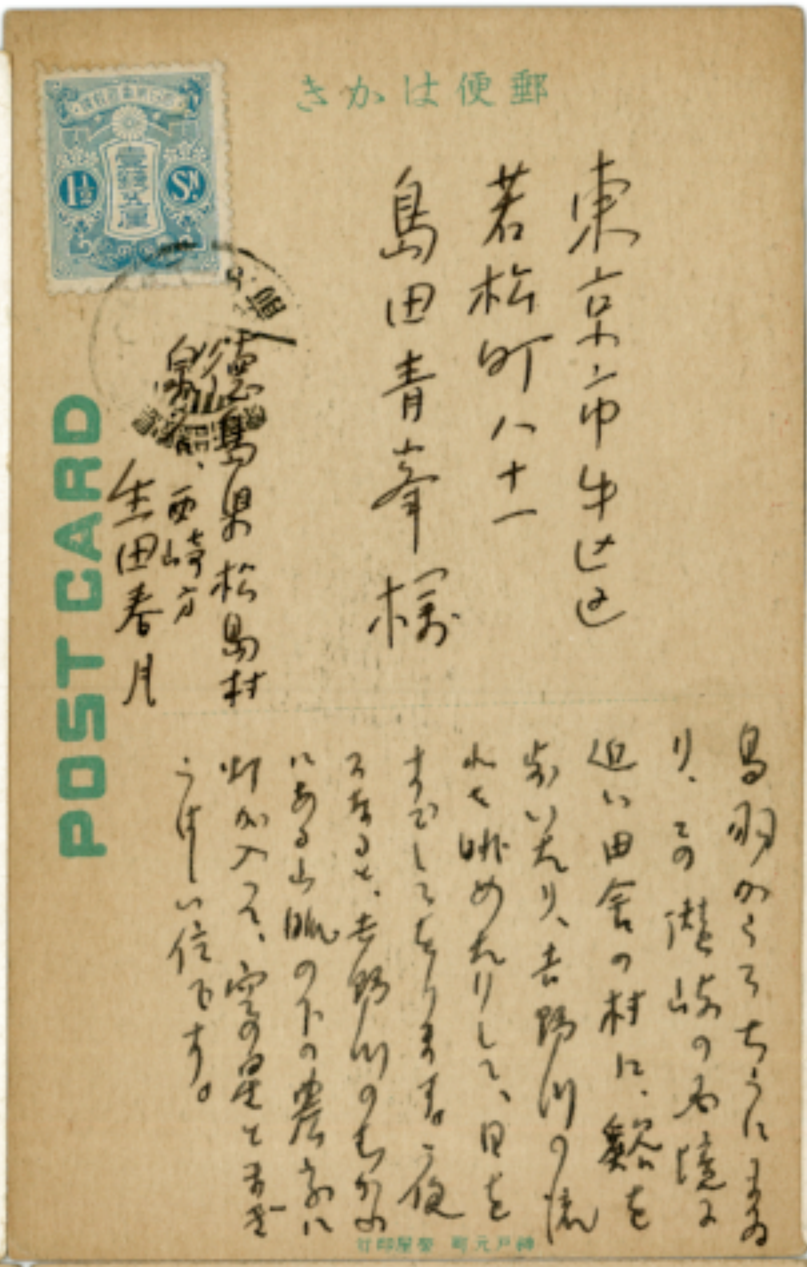
2.5.7

東京市京橋区
加賀町
國民新聞社学藝部
島田青峰様

長野県下高井郡
渋温泉 穀屋方
生田春月

（我が旅の）
新緑のめざましさを眺めて、
軽井沢へのぼると、樹はまだ若く、
落葉松のみが萌黄の淡い
てゐません。この山の奥へと
やつてくると、ほんの芽ぐみかけは
かし、東の山々は時々雪が
かつんとつめたく、まだ早春
のままで何か凡そ様子でありません
[illegible]
[illegible]

---


郵便はかき

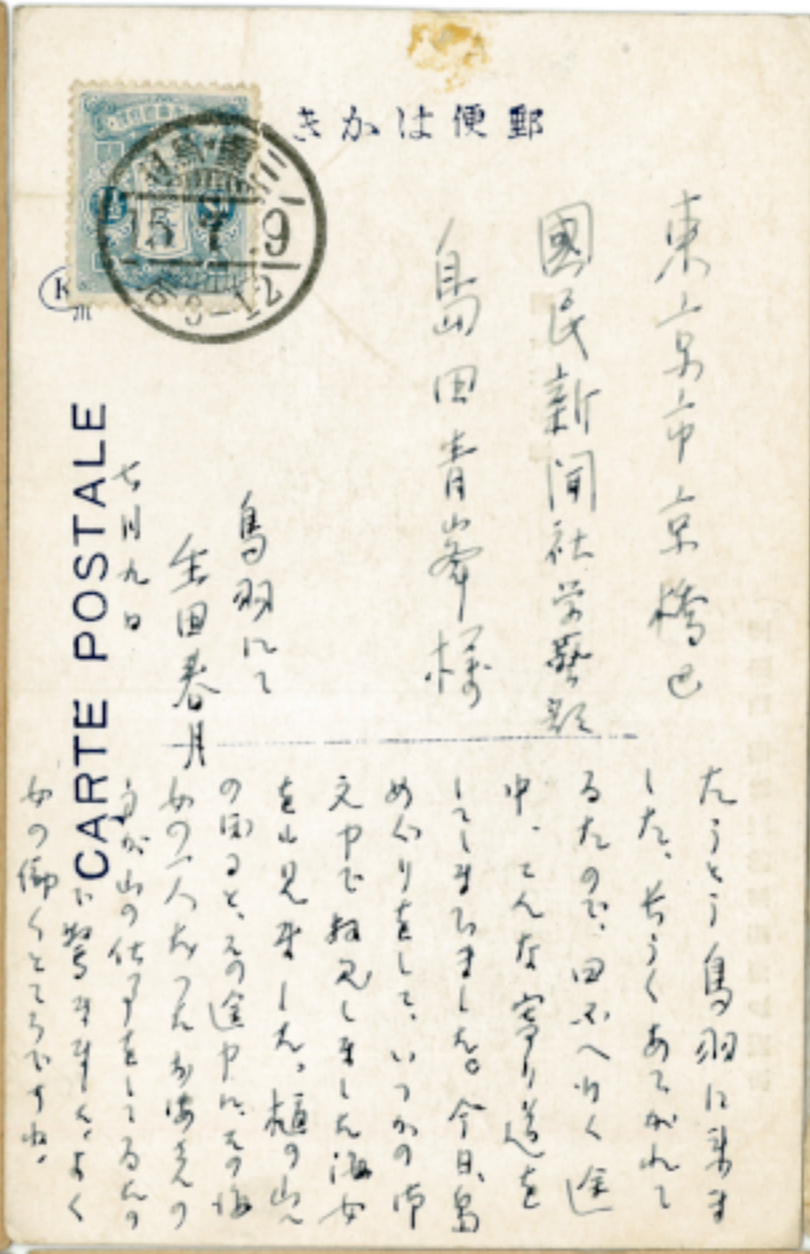
POST CARD

東京市牛込区
若松町八十一
島田青峰様

[illegible]県[illegible]松島村
西崎方
生田春月

鳥羽からちようど一里あま
り、この灘岸の辺境に
近い田舎の村に、縁を
求めて来たり、吉野川の流
れを眺めたりして、日を
すごしてをります。夜
になると、吉野川のむかふ
にある山脈の下の農家
ばかり見え、空の星と青
うれしい位です。

---


郵便はかき

CARTE POSTALE

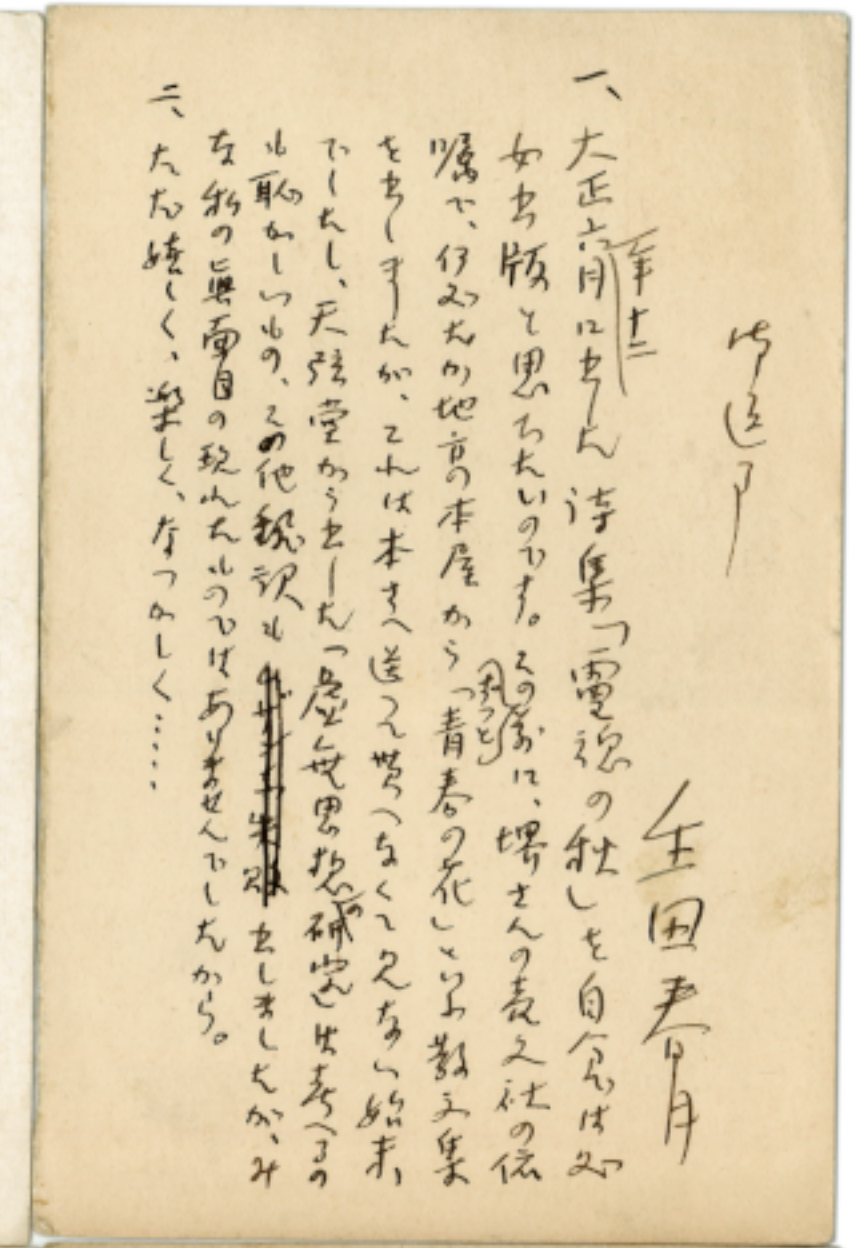
5.7.9

東京市京橋区
國民新聞社学藝部
島田青峰様

鳥羽にて
生田春月
七月九日

たうとう鳥羽に来ま
した、ちようどあてがあれて
るたので、田舎へ行く途
中、こんな寄り道を
してしまひました。今日、島
めぐりをして、いくつかの浦
々で船見しました。海女
を見て来ました。植の山へ
のぼると、その途中に、その海
女の人たちがてんでに[illegible]るんの
うが山の仕事をしてるんの
に驚きました[illegible]よく
女の働くところです。

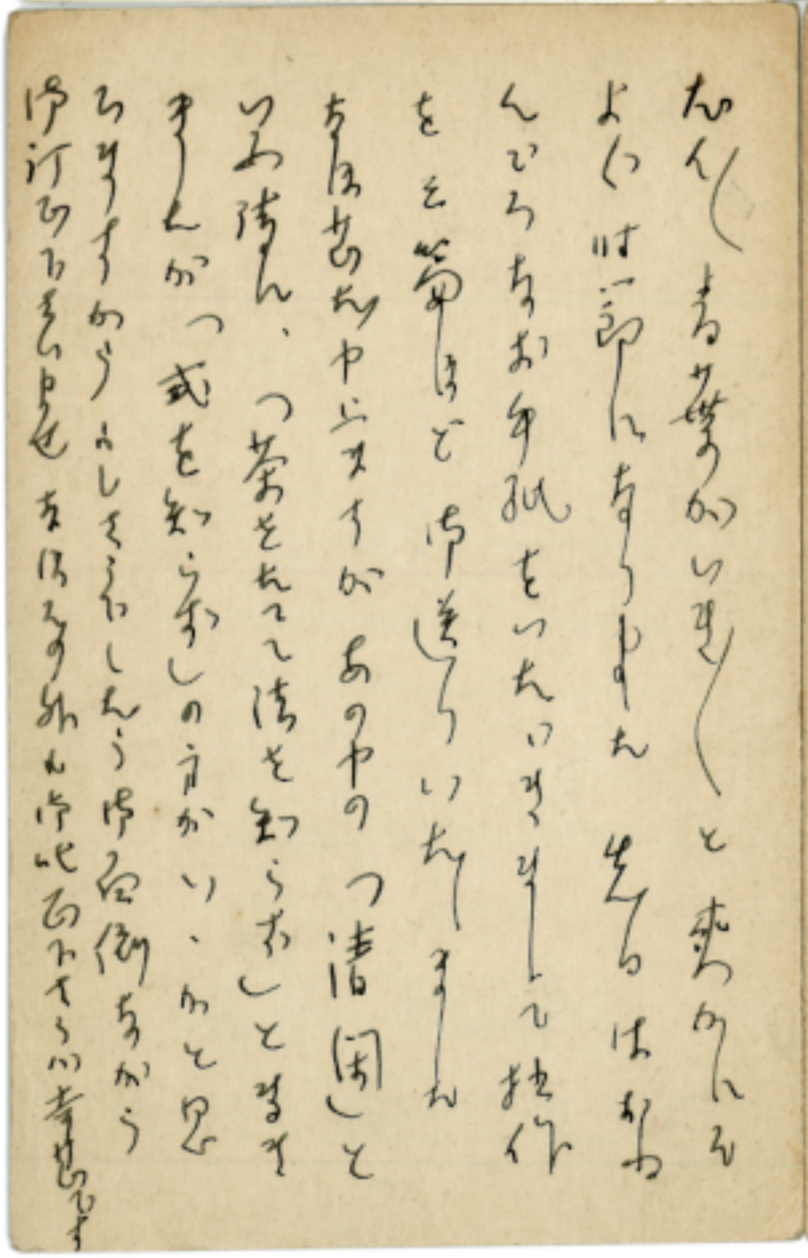
---


御返事

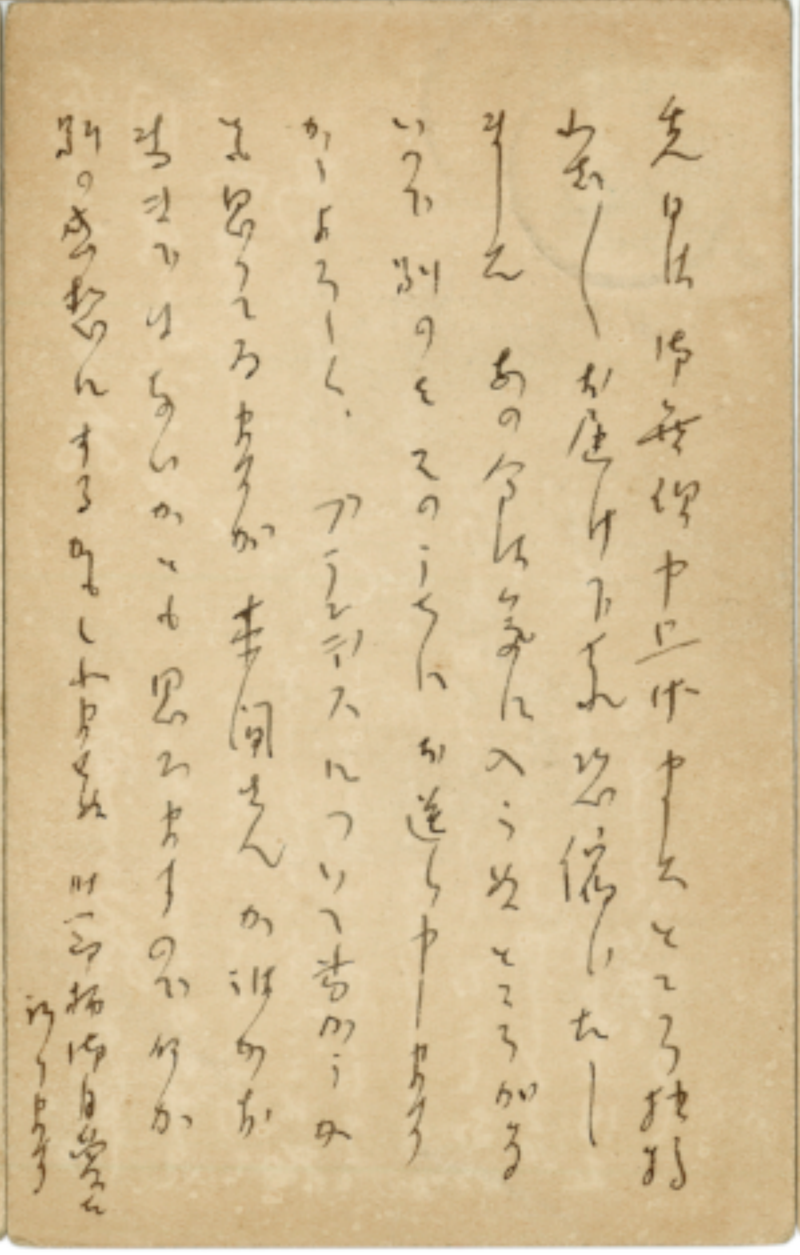
一、大正六年十二月に出した詩集「霊魂の秋」を自分では処
女出版と思はれたいのです。その前に、堺さんの売文社の依
頼で、何とかの地方の本屋から「青春の花」といふ散文集
を出しましたが、これは本さへ送つて来ない始末
でしたし、天弦堂から出した「虚無思想研究」も出来るの
も恥かしいもの、その他翻訳も~~[illegible]~~出しましたが、み
な私の真面目の読んだものではありませんでしたから。
二、ただ嬉しく、楽しく、なつかしく……

生田春月

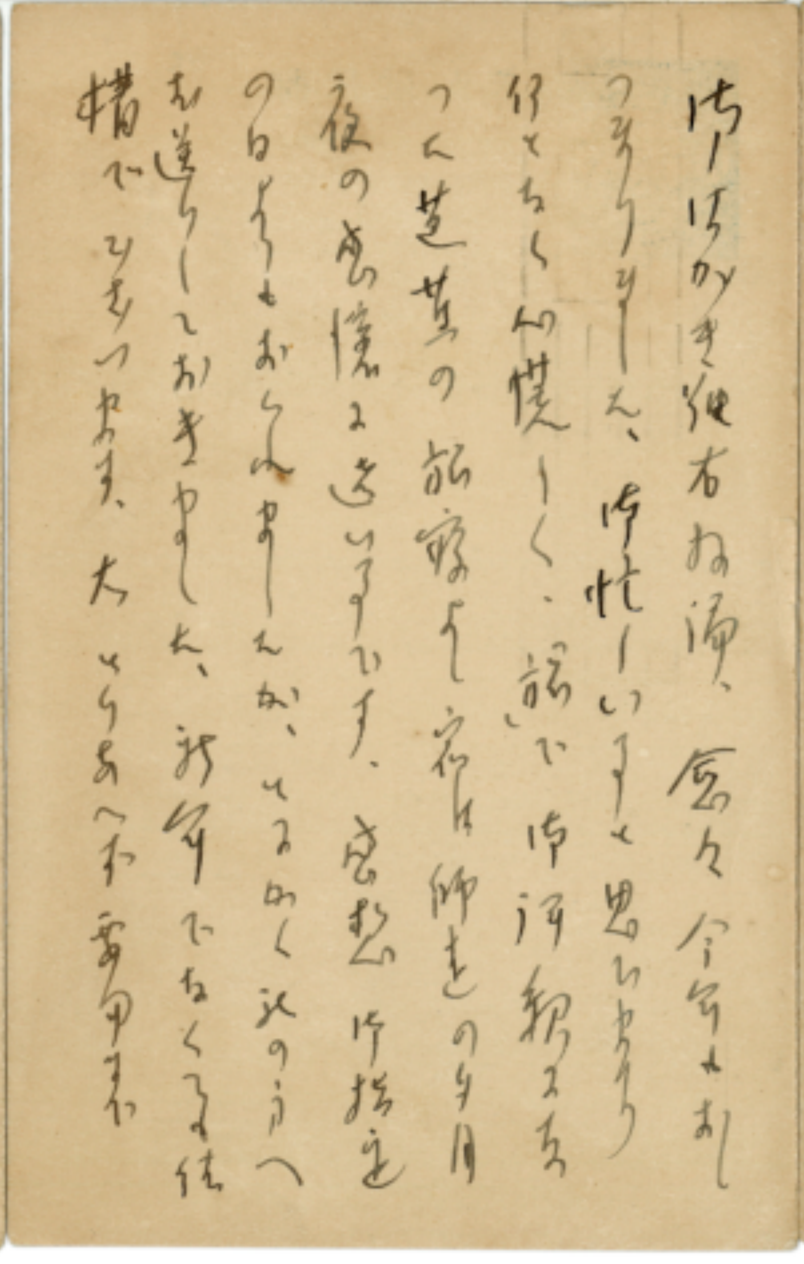
---


たいへん青葉がいきいきと美しくなる
よくは一週間になりません。先日はおわ
んでうちでお手紙をいただきまして拝作
を三篇ほど御送りいたしましたが
あれは[illegible]ですが、あの中の「清閑」と
いふ[illegible]、「茶を入れて清を知らむ」とあり
ますが、「式を知らむ」の方がいい、かと思
ひますから、[illegible]御面倒ながら
御訂正下さい[illegible]

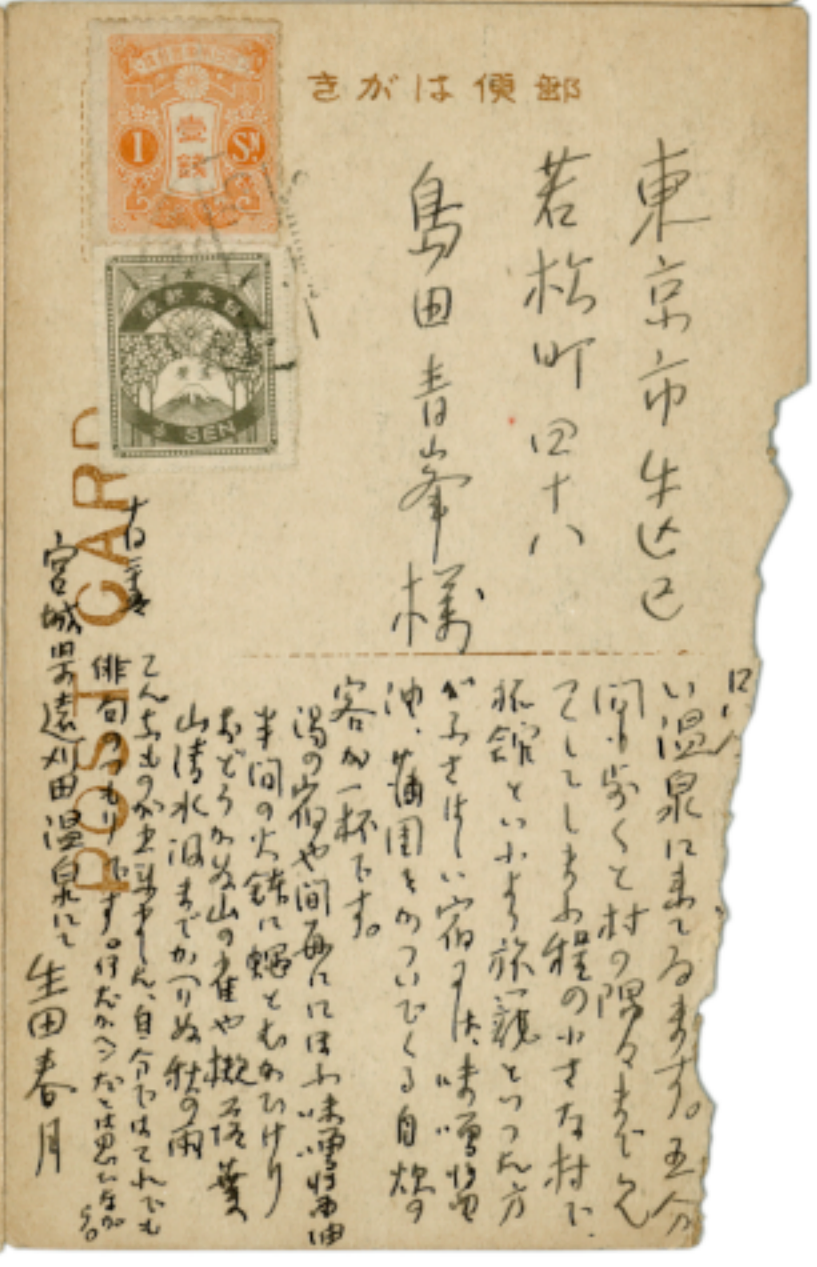
---


先日は御無理御申付け申上げまして恐縮
致しお便り下さいまして[illegible]
ません あの句は今年に入つてところが
いつか別のをそのうちにお送り申しあげ
かよろしく。[illegible]
思つて居りますが、[illegible]
[illegible]ではないかとも思ひますので何か
別の題にするかもしれません[illegible]

---


御はがき拝見、御清適、益々今年もお
つかりなく、御忙しいことと思ひますが
何とぞよろしく、就で御評釈されて
つくづく草葉の旅寝の[illegible]師走の今月
夜の[illegible]送りいたします。[illegible]
の日もおられませんが、[illegible]への
お送りしておきやしたが、新年でなくては
[illegible]、大[illegible]

---


郵便はかき

POST CARD

東京市牛込区
若松町四十八
島田青峰様

宮城県遠刈田温泉にて
生田春月

いい温泉に来てゐます。五分
間歩くと村の陽あたりまで
出てしまふ程の小さな村に、
旅館といふより旅籠といつた方
がふさはしい宿で、味噌汁
沖、藩国をめぐつてくる自炊
客が一杯です。

湯の宿や間毎には[illegible]
半間の火鉢に蝿とむかひけり
あぢやかな山の雀や[illegible]
山清水湯までかへりぬ秋の雨

こんなものが出来ました。自分ではてれても
俳句のつもりです。何だかへんだとは思ひながら。